

第47回 原産年次大会

福島セッション

福島の声に耳を傾ける —地域再生に向けて—

福島第一原子力発電所事故から三年が経った今も、十四万人の人々が避難を余儀なくされている。福島の日も早い復興に向けて、課題を共有して議論を深め、解決に向けて取り組んでいくことが重要である。本セッションでは、チェルノブイリ事故から復興を果したウクライナのストラウチチ市の例も参考にしながら、福島の人々の声に耳を傾け、地域再生のために何が必要かを考えていく。

住民の力で復興果たす

W・ウドウィチエンコ・ストラウチチ市長
(ビデオメッセージ)



一九八六年四月のチェルノブイリ事故被災者五百万人以上のうち、二百六十万人がウクライナ人だった。同年発電所周辺から十万人以上の住民が避難し現在も三十 km 圏内が立ち入り禁止区域である。しかし事故間もなくチェルノブイリ発電所1〜3号機は再開が決定し、同年十月十四日、原子力発電所の街プリピャチに代わる従業員たちの新たな街として、ソ連全土をあげてのストラウチチ市建設が決定した。

ストラウチチ市の最初の課題は除染作業で、表土除去などによる土壌の除染、線量が高い場合は樹木の皮まで除染し、許容できるレベルの環境を確保した。そして、完全な

国の法律をベースとして必要な町の条例を作った。小冊子「ストラウチチ市の発展」では、法律や関連規則、省庁の規則文書など、我々が長期にわたり国に働きかけ獲得してきた成果を集められている。これが将来の行動計画としてストラウチチがどのように発展していくべきか「道しるべ」となっている。

ストラウチチ市では先日、市の誕生から二十五周年の式典を迎え、四十九の民族出身者が仲良く暮らしている。一九九九年より経済特区として企業活動が推進され、千以上の雇用が生み出され、最新技術の導入にも成功した。ウクライナの住みやすい町としても常に十位以内に名前が挙がり、生活レベルは国内トップクラスである。

チェルノブイリや福島での事故に関しては、世界中が力を合わせて問題を乗り越えていかねばならない。我々のこうした経験が少しでも福島の復興に役立てればと思う。

困難乗り越え帰村目指す

遠藤雄幸・福島県川内村・村長

川内村は、福島第一発電所から約二十〜三十 km ほどの位置にあり、除染と時間の経過により放射線レベルはだいぶ下がってきている。

二〇一二年一月三十一日、戻れる人から村に戻ろうと呼びかける「帰村宣言」を発売した。まずは行政機能を戻し、帰村フラ整備をもっと進めていかなければならない。川内村は自治体として存続できるのか自問する中で、村に住み続ける誇りや意義をどう取り戻していくか探っている。補償も重要だが、それ以上に生きる意欲や目標を見失わないことが大切になってくる。短期的・集中的な投資で帰村できる環境を整えていく。戻ると「戻らない」という懸念が残る。また、野菜市場を含め四社が川内村で操業を開始したが、以前は村の総生産高七十五億のうち十億が農業に占められていたことに対して感謝の気持ちを忘れることなく、復興と新しい村づくりに進んでいくことが返還してはならないかと思っている。



前進のため苦渋の選択を

瀬谷俊雄・福島商工会議所顧問

「Sv」にこだわる除染方針に疑問を感じている。除染しても仮置き場がなく、一時的に庭に置いて青いビニールシートをかぶせているのが現状だ。今後中間貯蔵施設まで運搬するにも問題は起こるだろう。広大な森林の除染にしても採算が合わない。八町村では、いつまでも先が見えない状態が続いている。日本でも

よるもので、農業が生活の中心だった。村での生活を取り戻すには、インフラ整備をもっと進めていかなければならない。川内村は自治体として存続できるのか自問する中で、村に住み続ける誇りや意義をどう取り戻していくか探っている。補償も重要だが、それ以上に生きる意欲や目標を見失わないことが大切になってくる。短期的・集中的な投資で帰村できる環境を整えていく。戻ると「戻らない」という懸念が残る。また、野菜市場を含め四社が川内村で操業を開始したが、以前は村の総生産高七十五億のうち十億が農業に占められていたことに対して感謝の気持ちを忘れることなく、復興と新しい村づくりに進んでいくことが返還してはならないかと思っている。



福島自身が光り世の光に

丹波史紀・福島大学行政政策学類准教授

八町村民全体から半数の回答を得た福島大学の調査結果によると、避難場所を五回以上変えたにも関わらず、事故(アクシデント)と災害(ディザスター)は問題を分けて考えるべき。災害は、人々の命や



福島に来て学んでほしい

大和田新・ラジオ福島編成局専任局長

福島原子力発電所事故が被災地から寄せられた。故以来ラジオオにも蟻のごとく逃げ惑う群衆を、首相は空から視察しており、「直ちに」は影響ないと繰り返す、官房談話に



住居を奪っただけでなく、精神的肉体的苦痛が影響している。時間軸の不確実さと生活再建の遅れに對して報い、避難を続ける住民も公平な扱いを受けるべきだ。一方で、町おこしイベントであるB1クルメ大会では浪江焼きそばが優勝したが、被災した福島県浪江町民からは「町おこしする町がない」との声が聞かれた。

戻る人に対しては、生活の再建を最優先に考えてほしい。戻る住民の努力に對して報い、避難を続ける住民も公平な扱いを受けるべきだ。一方で、町おこしイベントであるB1クルメ大会では浪江焼きそばが優勝したが、被災した福島県浪江町民からは「町おこしする町がない」との声が聞かれた。

福島県では先日、地震津波の直接死者数を関連死者数が抜いた。ふるさとへ戻れない不安から福島の自衛隊者が宮城県や岩手県と比べて突出している。毎日増える原発事故関連死者を止めることが復興復興の第一歩だ。多少の不便さの中にも幸せを感じる生き方が日本人に求められている。震災後にラジオで「ママ、エアコン消したら暑いね。でもかき氷がおいしいね」というCMを流している。福島に来て、聞いて、学んでほしい。

「自分ごと」として考えて

加藤秀樹・構想日本代表を迎えパネル討論



ただでなくトミックスの環として原子力を考えるべき。原子力政策がはずれの道をたどる発想が必要。医療に解決していかないと、若者が英語を駆使して福島から世界に発信していったら大きな力になる。また、丹波 東京電力の福島事故の教訓を活かすために福島県に防災高校を作してほしい。

加藤 原子力発電について、それぞれ意見はあつていいが分断が進んでしまっている。議論も進んでほしくないという叫びは、だめなのか。原子力に依存しない村づくり真剣に考えている。百人いれば百通りの村に戻れない理由がある。それを並べる

状況なのは問題だ。遠藤 事故が起きた。この事実だけで再稼働してほしくないという叫びは、だめなのか。原子力に依存しない村づくり真剣に考えている。百人いれば百通りの村に戻れない理由がある。それを並べる

ただでなくトミックスの環として原子力を考えるべき。原子力政策がはずれの道をたどる発想が必要。医療に解決していかないと、若者が英語を駆使して福島から世界に発信していったら大きな力になる。また、丹波 東京電力の福島事故の教訓を活かすために福島県に防災高校を作してほしい。

加藤 今日四人が与えてくれた材料をもとに一人ひとりが自身で考えてほしい。日本中が他人事ではなくすべて自分で考えてほしい。

